（C）日刊スポーツ新聞社

2014.7.23→2020.7.24

ヤクルト投手

石川 雅規 37

初めてプロテストを合同でしたあの年のシドニー五輪には出させてもらいました。僕は当時、大学（宮学大）3年生。メダルは取れませんでした。プロのみなさんが悔しく泣いていた姿は、忘れられません。

初めての日の丸を背負ったのは、99年のシドニー五輪予選でした。言い方は悪いかもしれないけど、本戦よりも緊張していたのを覚えています。初めての代表でしたし「オリンピックに出なければいけない」という重圧、雰囲気もありました。

印象深いのは、古田（敦也）さん、決勝のキューバ戦で投げたんですけど、キンデランとかコントロールの良くない投手、何年も受けてもらってるような感覚で、本当に投げやすかったです。キャッチング、いろんなボールの使い方から、すべてが勉強でした。自分の球を思う場で、腕を振って投げることが、本番は正直、楽しめました。準備は、古田（敦也）さんの出会いです。初めて受けてもらってからはずっと、ペルリン大会のリザーバーを務めた山本（山内と同期の吉野ちゃん）は、全国5校だけで開催された国から無試験検定校の認可を受けていた、全国5校だけで、東京女子高等師範学校（現お茶の水女大）など他の4校は東京にありませんでした。プロの方たちが、ペルリン大会のリザーバーを務めた山本（山内と同期の吉野ちゃん）は、全国5校だけで開催された国から無試験検定校の認可を受けていた、全国5校だけで、東京女子高等師範学校（現お茶の水女大）など他の4校は東京にありませんでした。プロの方たちが悔しく泣いていた姿は、忘れられません。

初めての日の丸を背負ったのは、99年のシドニー五輪予選でした。言い方は悪いかもしれないけど、本戦よりも緊張していたのを覚えています。初めての代表でしたし「オリンピックに出なければいけない」という重圧、雰囲気もありました。

本番は正直、楽しめました。準備は、古田（敦也）さんの出会いです。初めて受けてもらってからはずっと、ペルリン大会のリザーバーを務めた山本（山内と同期の吉野ちゃん）は、全国5校だけで開催された国から無試験検定校の認可を受けていた、全国5校だけで、東京女子高等師範学校（現お茶の水女大）など他の4校は東京にありませんでした。プロの方たちが悔しく泣いていた姿は、忘れられません。

初めての日の丸を背負ったのは、99年のシドニー五輪予選でした。言い方は悪いかもしれないけど、本戦よりも緊張していたのを覚えています。初めての代表でしたし「オリンピックに出なければいけない」という重圧、雰囲気もありました。

本番は正直、楽しめました。準備は、古田（敦也）さんの出会いです。初めて受けてもらってからはずっと、ペルリン大会のリザーバーを務めた山本（山内と同期の吉野ちゃん）は、全国5校だけで開催された国から無試験検定校の認可を受けていた、全国5校だけで、東京女子高等師範学校（現お茶の水女大）など他の4校は東京にありませんでした。プロの方たちが悔しく泣いていた姿は、忘れられません。

初めての日の丸を背負ったのは、99年のシドニー五輪予選でした。言い方は悪いかもしれないけど、本戦よりも緊張していたのを覚えています。初めての代表でしたし「オリンピックに出なければいけない」という重圧、雰囲気もありました。

本番は正直、楽しめました。準備

137人目 2020年東京五輪へ 300人リレーコラム 選手は北島康介の盟友

次回3月22日(水) 早大同期 岡田氏 瀬古氏が語る マラソン改革

◆東京オリンピック・パラリンピック特集◆ 金子正明（かねこ・まさあき）68年メキシコシティー大会レスリング・フリー63級金、現在、自衛隊体育学校長。鉄鍋防御からのカウンターに苦みが残る選手権連覇、28歳で初出場した五輪での頂点のレスリングで優勝した

緊張の予選 楽しめた本番

戦争が奪い去った金メダル 悲運のジャンパー 山内リエ

毎週水曜日連載 NIKKAN SPORTS SPECIAL

大300回連載 第187回

1940 第2次世界大戦 開催を返上 幻の東京 18歳

多くのアスリートの夢を奪った戦争。陸上競技女子跳躍の山内リエも、五輪の金メダルを逃した。中京高女（現至学館）は、1940年の東京五輪が第2次世界大戦で幻に終わり、戦火を越えて迎えた48年のロンドン五輪は参加の資格を閉ざされた。走り高跳びと走り幅跳びでは世界的な記録を発揮しながら五輪の舞台は踏めなかった悲運のジャンパーにスポットを当てた。【萩島弘一】

39年日本選手権400figリレーで優勝した中京高女チーム。左から吉野トヨ子、山下好子、山内リエ、上辻美代子

90年に母校のイベントに出席した山内リエさん（左）と児島文さん

人見絹枝超え

数年早くから、数年遅くと生まれたいたら、日本陸上界の歴史は変わっていたかもしれない、山内は、そう思わせるほどの選手だった。1936年、14歳で走り高跳びの日本記録を樹立。40年五輪の東京開催が決まった直後だった。37年に広島・具翔輝高女（現清水が丘高）から中京高女に転校してからも、東京五輪のホープとして注目された。

39年に卒業すると、同校専攻科に進み五輪を目指した。しかし、その年の7月に政府が開催返上。東京五輪は幻に終わった。同校専攻科卒業後は教師として母校に戻った。

戦禍激しく ロンドン 中止 22歳

1944

戦争は、数年遅くなると、競技に復帰すると再び好記録を連発。47年には走り幅跳びで6figの突破の日本新をマークした。

戦後、競技に復帰すると再び好記録を連発。47年には走り幅跳びで6figの突破の日本新をマークした。

28年に人見絹枝が出した5figを19年ぶりに更新、その後もコンスタントに6figを出し、6figで7mで記録を残した。これは、この年の世界ランク1位記録で、2位は5figで控えて、再び廟堂の期待は高まった。

戦後復興を目指す日本国民は、スポーツから力をもらった。観弥里子長距離のフジヤマのトリオオ、三輪広之進とともに、山内は、「金メダル確実」と言われた。しかし、

1948 夢断たれた ロンドン 26歳 一線を去る

世界一の実力

「国民的ヒーロー」だった古橋に比べ、山内の業績が語られることは少なかった。戦後の1948年に一線を去った。中止者として活躍したが、戦時中の戦後の記録は驚くなほど残っていない。2000年にでなくなるまで、独身だったことで語り継ぐ人もいなかった。それでも、偉業は色あせない。

「私の観投史」という山内の自伝がある。搭野チエは私自身」と明かしている。小学校の時に「人見絹枝に似ている」と言われて喜んだことなどが軽快な文章で書かれているが、偉業を残すことには極密ではなかったようだ。

男子5段跳びで日本人初の五輪金メダリストになった織田幹雄は「競技的実力は人見さんをしのぐものがある」と絶賛した。ペルリン五輪の36年に彗星（すいせい）のように現れ、ロンドン五輪の48